

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300288		
法人名	株式会社イー・ケア		
事業所名	グループホーム イー・ケア中里		
所在地	静岡県富士市中里172-7		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和7年度4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2292300288-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 7年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が掲げている理念「その方の有する能力がいつまでも維持できるよう、自立＝自己実現ができる支援をします～できることをいつまでも～」を継続しています。ご入居者様の尊厳を保持しつつ、できること、残存機能を活かし続けていく支援を心掛けています。勤続年数が長い職員が多いことを踏まえ、入居者様が安心して生活できるように入居者様の状況の把握等職員間での連携を強みとしています。サービス質の向上を目的に年度研修計画を立て毎月勉強会を実施しています。あくまで結果論にすぎませんが、新型コロナウィルス感染症が流行しだしてから現在に至るまで、入居者様に新型コロナウィルスに感染した方は1名もおらず過ごされていますので感染対策にも力を入れています。令和4年3月に取得した「静岡県働きやすい介護事業所認証」は改めて更新申請をしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は職員の研修に力を入れ、年間計画に基づいて職員がスキルアップできるように工夫している。さらに事業所では職員が自ら気づいて対応できるように各職員に研修を振り分け内容や資料を準備することによって力をつけている。管理者は職員の良い点を理解し伸ばすような声かけや環境を心掛け、職員同士の関係も良く、それぞれ得意な分野(料理、イベント計画、掲示物等)を活かし、互いに尊重しあっている。今年度は地域の見守り事業所に登録し地域とのつながりを強化している。コロナ、インフルエンザ等感染に対して施設で対策をし、職員は自分の体調に気をつけると共に休みやすい環境を整えている為、利用者のコロナ感染者はゼロを維持している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できることをいつまでも」を理念とは別に事業所の理念を掲げ介護サービスを提供している。自立支援に向けた理念を掲げることで職員が共通認識を持ち、入居者様に寄り添っていければと考えています。	施設理念と期間を定めた運営目標を掲示している。職員は理念、目標を理解し共通の意識を持って実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年度地域の文化祭に出店をし、小さい子供からご年配の方までと交流を図り、イー・ケア中里を知ってもらうことを目的とした。須津地区推進会主催の高齢者みまもり連絡所発足式に出席し高齢者みまもり事業所として登録して頂き、表彰を受けた。ボランティアが来訪し流しそうめんイベントを開催している。	地域の文化祭に「輪投げと福祉用具の展示と説明」コーナーを出し、来訪者が興味を持ってくれ盛況だった。該当地区の高齢者見守り事業所に登録している。デイサービスと一緒にボランティアの協力を得て流しそうめんのイベントを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、認知症サポーター養成講座の開催等行っておりませんが、事業所内では、認知症の方への理解を深めるために勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議の案内を通知し参加できない方にも意見を伺えるように意見書も送らせて頂いている。運営推進会議では、管轄地域包括支援センターの方等と意見交換をしている。また議事録も関係者、ご家族に配布している。	2ヶ月に一度運営推進会議の案内を通知し、地域包括支援センター等の参加を得て開催している。議事録は家族、参加者に郵送し、職員も議事録を閲覧している。事前に家族には会議内容を通知し、出欠の有無、意見の提出をお願いしている。	運営推進会議への参加者が限られているため、広く意見を取り入れられるよう地域の関係者、民生委員等の参加の呼びかけを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富士市グループホーム連絡会に出席し、富士市内のグループホーム関係者と意見交換をしたり施設の状況をお話したりしている。毎年出展している富士市福祉展も継続して参加している。	富士市グループホーム連絡会（現在はオンライン）に参加し、令和7年度は連絡会の副会長を務める。行政とはメール、電話、直接窓口での相談ができる関係を築いている。市の福祉展には毎年出展し、利用者共々刺激を受け、次への意欲に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を施設出入口に掲示している。また定期的な研修と委員会の開催している。	指針、マニュアルは整備され、職員はいつでも閲覧でき、家族も自由に見ることができるよう配慮している。研修は定期的の実施し、法人本部から拘束、虐待についての情報提供がある。毎月身体拘束について、職員一人一人の意識確認を記録している。	

静岡県(グループホームイーケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所入口に高齢者虐待防止に関する指針を掲示するとともに、委員会の開催をしている。年2回の研修の機会を設けている。毎月の勉強会用紙を活用し高齢者虐待防止及び身体拘束になりうるケースを記入できるシステムにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてのDVDを保持しており、自由に観れるように置くようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容を省略することなくゆっくりと丁寧に説明する意識で説明している。また、都度、何かわからないことがないか確認をしているが、後日、疑問点等がでることも想定して気軽に連絡頂くよう促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、顧客満足度アンケートを実施し利用者家族にアンケートを配布し回収している。結果を法人内で共有するとともに運営推進会議を活用し、アンケート結果を伝えている。また、面会に関するご家族からの希望等を感染状況を鑑みた上で、面会案内を改定を試み、決定事項を配布するようにしている。	法人のアンケート調査を毎年実施し、結果は職員で共有し話し合っており、運営推進会議で公表している。利用者の日頃の様子は、毎月のお便りに一言添え発送し、管理者や看護師が連絡している。面会も制約はあるが、家族の要望によって柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1度、人事考課制度の時期があり、職員一人一人が会社に意見を述べる機会がある。また、会社として年度研修目標に対する意見書等、会社が職員に意見を求める機会もある。	管理者は職員の働きやすい環境作りに努め、職員間、管理者とも話しやすく相談しやすい関係であるとヒアリングで確認できた。事業所内の研修は内容により職員が担当している。ハラスメントに関して法人本部へ直接話せる窓口も設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて、自己アピールできる場となっており、結果を踏まえて昇給、昇進等に反映する機会としている。管理者は一次考課者として職員一人一人の良い所をコメントし処遇アップに向け後押ししている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としてもキャリアに合わせた研修計画があり実施している。主に、オンライン研修となっている。資格取得に向けた案内等を会社から頂くこともある。		

静岡県(グループホームイーケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市グループホーム連絡会に出席することを意識している。交流会は現在開催されていない状況だが繋がりを持っておく必要性を感じる。また、同業者との意見交換で知らなかった情報を入手できることもあり貴重な機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時に、本人の要望、ご家族に対し、計画作成担当者から意見を聞くようにしている。入居前からアセスメントをし、入居時にも再びアセスメントをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	医療面等については看護師からお話ししてもらうようにして連携を取っている。看護師、介護職が連携をしてご家族にも生活に必要なものなどの相談をしており、管理者からは利用料等の細かい所について説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設生活で必要とされるもの(例えば車椅子の利用等)を把握し状況に応じて備品の貸出をしている。医療面では看護師中心に医療機関と連携を取るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向を聞くように日々介護職も務努力をしている。必要なことを見極め支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時には、ご本人の嗜好品(お写真等)を持参して頂くこともお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な面会をご家族には依頼している。また、面会希望の連絡があった際には面会をお願いしている。	現在は家族の面会が主となっており、事前の予約が必要であるが柔軟に対応している。併設のデイサービスの利用者とボランティアのイベント時に交流している。	

静岡県(グループホームイーケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食レク等を行事に取り入れ交流する機会を設けている。共同作業をすることで関わり合いの機会が得られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行った利用者のご家族に対し、身体を気遣う等配慮させて頂いた。退去後もご家族が施設を訪ね職員と会話していた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者より、ケアプラン作成時に意向の聴取するようにしている。また、日々の中での要望等は傾聴している。利用者の立場になって関わらせて頂いている。	現在、思いや希望を積極的に話す利用者は少ない。職員は利用者の日頃の様子、表情を読み取り連絡ボードや申し送りノートで情報を共有し思いや暮らし方の希望を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階で過去の生活歴や使用していたサービス等の把握に努めている、入居前にご本人と面会をしアセスメントさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康管理と変化等を介護記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の対応方法等に変化があればご家族に面会時に説明や電話を活用して連絡を取っている。ケアプラン作成は各職種の職員に聞いて参考にし作成している。	モニタリングは職員の意見を聞いて計画作成者が定期的に行い、担当者会議で利用者のアセスメントをしている。職員から様子を聞き、記録、申し送りノートを参考に、本人、家族、医師、看護師の意見を参考に、計画作成者が介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは、介護記録に残すことや口頭での申し送り等も実践している。		

静岡県(グループホームイーケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族には、今後の状態に応じた対応を想定したお話をすることもある。今の状態でグループホームからの生活が可能かどうかの判断を医療機関に相談することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩行訓練のために、施設周りを歩かれる方もいる。流しそうめん等のイベント時には、1階のデイサービスに出向き、デイサービス利用者、職員と一緒に楽しむ時間帯を設けることもあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者が協力医療機関を主治医としている。月に2回訪問診療を受けられ、ご家族の負担も軽減できる。協力医療機関以外の受診時にも状況に応じて施設看護師がご本人及びご家族に同行させて頂く場合もある。	利用者全員が月2回協力医の訪問診療を受診し、体調不良時には24時間、相談ができる体制が整っている。協力医以外の診療を受けている利用者は家族が対応しているが状態により看護師が同席している。また、看護師は利用者の体調変化について常に協力医と連絡をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日々の健康や変化がある際には、介護職から看護師へと報告し、状態によっては医療機関に繋げる流れになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院の際に、看護サマリーを頂いたり、看護師が直接病院に問合せをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針、重度化した場合における医療体制指針、ターミナル依頼書兼終末期宣言書を契約時に説明している。ターミナル依頼書兼終末期宣言書については1年に1回ご家族等に再確認をし同意を得ている。看取りまたはターミナルについては1年に1回定例勉強会を開催するようにしている。	重度化、終末期の指針、マニュアルは整備され、契約時に内容の説明を行い同意を得ている。「ターミナル依頼書兼終末期宣言書」は年に一度意向を伺いながら再確認を行い、職員は、年1回の看護師による看取り研修で学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応方法等フローチャートを掲示してある。また定期的に勉強会を実施している。		

静岡県(グループホームイーケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	富士市及び静岡県の防災の日にあわせ防災訓練を実施しているが、他にも自衛消防訓練を実施しており、防災訓練計画を立て1年に3回実施している。消防署に来ていただき助言を頂く機会もある。	年3回、夜間、管理者不在時等様々なケースを想定して訓練計画を立て実施している。消防署からのアドバイスも受け、備蓄、備品のリストを整備し、常時確認している。災害BCPの指針、マニュアル作成には職員も関わり、訓練にも取り入れている。利用者の部屋の入り口にはヘルメット、利用者の状態トリアージ表がある。	BCPの指針、マニュアルに訓練での気づきを取り入れて事業所独自の指針、マニュアル作成に改善されるよう望みます。また、災害に備え地域の協力が得られるような働きかけを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として入社時研修の内容に接遇を盛り込んであります。事業所の中でもお互いに入居者への対応方法について助言等をして注意を払っている。	入社時に法人研修で接遇を学んでいるが、新入職員が入り、職員全体で再度確認している。経験豊かな職員が多く、利用者のことを把握している。職員同士で注意しあえる関係はできている。内容によっては管理者が注意、対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の発言には耳を傾けることを実施している。また、お話を聞く際には相槌を打つことを意識している。利用者には個別ワークとしてできる作業をお願いさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寄り添う介護は必須だと思いますので耳を傾けたり動きを確認して寄り添うことを実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日の時間を認識して頂くために就寝時にはパジャマに更衣して頂いている。き商事には、静養の声掛けや一部介助させて頂いている。入浴時には、衣類を利用者に選んでいただいている。選択が困難な方には職員がお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル吹き矢食器洗い、お米研ぎ等職員と利用者で役割分担をし実施している。定期的にお楽しみ食を提供している。	食材は栄養面を考えた配達業者を利用して、届けてもらい調理している。テーブル拭き、食器洗い、拭き等、利用者それぞれの保有能力を考慮し、手伝ってもらっている。誕生会、季節の行事等お楽しみ会は利用者の希望を取り入れて計画し、楽しみを増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個別に記録し状況把握している。体重増減についても定期的に計測しその結果を管理者から計画作成担当者に情報提供している。		

静岡県(グループホームイーケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし歯磨きをして頂いている。介助が必要な方は口腔ケアを実施している。訪問歯科を導入している為、歯科衛生士による口腔内の確認や、助言事項を頂き、介護職も把握できるようにし実践に活かせる仕組みになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の状況やバイタルパターンの把握に努めている。目が見えないからにもお声掛けをし誘導させて頂いている。	排泄チェック表に記録し、個々の状態やパターンを把握して時間やタイミングでトイレでの排泄を支援している。見守りでトイレへ行く利用者もいる。夜間も時間やタイミングでトイレへ誘導したり、ポータブルトイレの使用、紙おむつと利用者に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように水分摂取を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂けるように声掛けを工夫している。入浴方法は一般浴又は機械浴にて状態に合わせて入浴して頂いている。	週2回の入浴を基本とし、利用者の状態に合わせて併設のデイサービスの機械浴も利用している。職員は入浴の声かけに配慮し、入浴剤も数種類用意して利用者に気持ちよく入浴してもらえるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活スタイルの把握に努めている。1日離床することは大変だと思うのでお声掛けし、日中横になる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬内容を把握しており、服薬管理についても誤薬がないように名前、日付、時間、飲み込みまでしっかり確認している。ホワイトボードを活用し服薬の変更点や対応点等は職員が分かるように看護師が工夫してくれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日にはお祝いをさせて頂いている。イベント事には参加して頂き楽しみを持っていただくように意識している。富士市福祉展の工作作りを一緒に行っていたい。		

静岡県(グループホームイーケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1年に1度開催されている富士市福祉展へと完成品を展示場に見に行っている。車椅子の方もリフト設備のある車両を使用し展示場見学を実現できています。福祉関係の方たちが作成した作品もみることができるので刺激になると考えます。	富士山が綺麗に見える広いバルコニーで外気浴を行い、敷地内の畑で草取り等の作業をしたり、近くの公園におやつを持って花見に出かけている。富士市の福祉展へ職員と利用者が出かけ、他の施設の作品を見ながら次の福祉展出品作品の参考にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはしていない、お買い物する機会があれば、立替で一緒にお会計をすることを実践する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取り等はないが、ご家族等から電話がかかってきた際にご本人に繋ぐ場合があります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは日当たりが良い。また、窓や共有スペースには季節を感じる飾り付けをしてあり、季節感を感じて頂けるように工夫している。	居間は陽当たりが良く明るい。壁、窓に季節に合った作品が掲示しており、今年度福祉展出品の張り子のキリンは親しめるよう名前をつけている。廊下居間の掃除、消毒は職員がこまめに行い環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、利用される方はいませんが、共有スペースにソファを用意させて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時からご本人の馴染みのあるものを持って参頂ようをお願いしている、利用者によっては写真等が居室内に飾ってある。	家族の写真が多数飾ってある部屋や利用者の娘さん手作りの作品や親戚からの干支の人形で賑やかな部屋など特色がある。ベッドは、動線を考えて配置され安全な環境に配慮されている。緊急時に備えて、部屋の名前札に利用者の身体状況トリアージの表記とヘルメットが準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にできるようにバリアフリーを完備してあります。歩行訓練時にも使用しています。職員が同行をさせて頂き、できることを継続していけるようお声掛けをしています。		